

# 和霊大明神奉納公演

山口県指定無形民俗文化財

周南市安田の糸あやつり人形芝居

つばさかんのんれいげんき  
壺坂観音霊験記

つばさか  
壺坂寺の段

令和7年 8月3日 日 開場13:00  
開演13:30

会場 周南市安田 562-2

三丘市民センター  
大ホール (三丘徳修館)



〔出演〕周南市安田の糸あやつり人形芝居保存会

〔お問合せ〕TEL 0833-91-0223 (片川) TEL 0833-92-0177 (三丘市民センター)

〔後援〕周南市 周南市教育委員会

よしつねせんぼんぎくろ  
義経千本桜

みちゆきはつねのたび  
道行初音旅





# 和霊大明神奉納公演

令和7年8月3日 13時30分

## 山口県指定無形民俗文化財 周南市安田の糸あやつり人形芝居

安田の糸あやつり人形芝居は、江戸時代後期、四国阿波徳島の藍染め商人「松尾某」が、安田の市で商いの傍ら、人形を手作りして村人に浄瑠璃を教え伝えたのが起源とされています。戦時中一時中断したものの、戦後すぐの昭和二十一年に保存会が結成され（三丘三和会）、昭和五十一年には山口県無形民俗文化財に指定されました。人形は五本の糸で操られる簡素なもので、義太夫浄瑠璃の形で演じられます。

### 義経千本桜 道行初音旅

よしつね せんぼんざくら みちゆきはつねのたび

この演目は、源義経の愛妾静御前が、家来の佐藤忠信とともに、吉野山に逃亡中の義経を訪ねる道中で、屋島壇の浦の戦いを回顧し、二人がそれを舞踊で表現するというものになっています。

忠信は狐の化身で、時々入れ替わったりもします。このお話の後段でわかるのですが、静御前の持っている鼓がこの狐の母親の皮で作ったもので、面影を慕い、鼓の音色に魅かれて、忠信に化けてお供しているという設定になっています。

目に美しい2体の人形の動きと、忠信の着替え（ぶっかえり）、狐の出入りなど、いろいろな趣向が施されています。舞踊仕立ての作品ですので、三味線のほかに、鼓、太鼓、柝、うぐいす笛などの鳴り物も遣います。お楽しみください。



平成七年に始まった三丘小児童への継承活動や、近隣の熊毛北高等学校生徒の伝統芸能に関する探究学習での指導も行っています。今年には会員も増え、新しい風が吹く中、『道行』の「調べあやなす音に連れて、連れてまねぐさ（招くさ）」の如く、その出逢いがもたらした化学反応を舞台上でも、それ以外の幕間でも感じていただけたら幸いです。

### 壺坂観音霊驗記 壺坂寺の段

つばさか かのん れいげん き つばさか であら だん

奈良は土佐町、壺坂寺の麓に住む沢市は、幼い頃に患った天然痘がもとで目が見えなくなり、貧しい暮らしをしています。おまけに妻のお里が毎日のように夜明け前になると家を空けるので、外に男がいるのだらうと、あらぬ怪気を起こしてしまいます。実はお里は、眼病にご利益のあるという壺坂寺へ、願掛けに通い詰めていたのです。それと知った沢市は、ある決意を込めて、「自分も祈願するから壺坂寺に連れて行ってくれ」とお里に頼むのでした。

ここからが今回上演の場面となります。お里は喜んで沢市を壺坂寺まで連れて行きます。寺に着くと、沢市は「今日より3日間、ここで断食して祈願する」と言い、お里を一旦家に帰します。こうして、一人になった沢市がとった行動とは。そして、それを知ったお里は：

明治時代に作られた、貧しくも懸命に生きる夫婦の心温まるお話です。



会員募集

周南市安田の糸あやつり人形芝居保存会（三丘三和会）

毎週火曜日夜19:30～、三丘市民センター（三丘徳修館）にて稽古をしています。是非一度、お気軽に見学にお越し下さい。一同お待ちしております。